



人と環境にやさしいトランジットモデル都市をめざして RACDA

第 235 号

2023/ 4

データが示す回復傾向

ここが正念場だ！

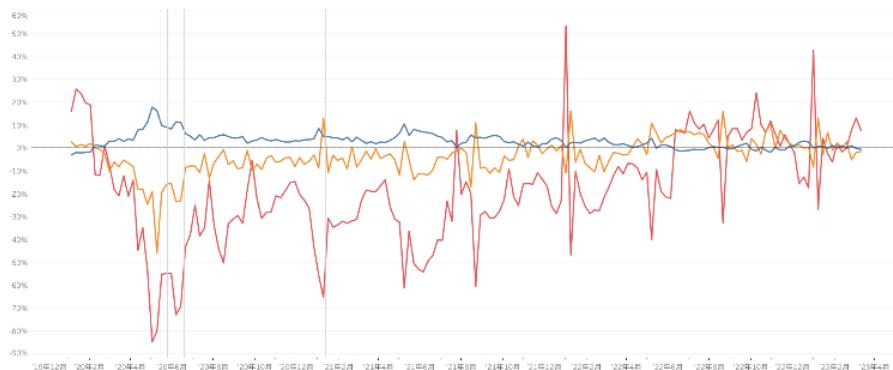
■コロナ禍という長いトンネルからようやく光が見えてきた。3月13日にはマスクの着用が大幅に緩和され、5月8日には5類に移行と、徐々にコロナ前の日常が戻りつつある。まだまだ予断を許さない状況ではあるが、徐々にインバウンドや長距離輸送も回復してきており、街に賑わいが戻りつつあることを実感する。実際にJR各社の利用概況を見てみると、2022年の10月頃からコロナ前の8割前後の水準まで回復しており、近距離ではコロナ前を超える月も出てきた。では、その他のデータはどうだろうか。気になるデータをいくつか見てみよう。

■まずV-RESASによると岡山県内における人流については、コロナ前の水準にかなり戻ってきている。特に都道府県外の入込みについては、今年に入ってからコロナ前を上回る水準になりつつある。これは別の表でも確認したが、同様の傾向で、確実に県外からの来訪者が増えていることが言える。インバウンドの復活や全国旅行支援による後押しも大きいだろう。しかしながら、一概に楽観はできない。ずっと言われてきたように、テレワークやweb会議、ECなどの定着により、完全にコロナ前の状況に自然回復するとは考えにくいのもまた事実である。

岡山県の滞在人口の動向 - 推定居住地ごとの2019年同週比の推移

2019年12月30日 ~ 2023年3月12日

代表観測地点 岡山県全体
時間帯 すべての時間帯
滞在人口の推定居住地 : 市区町村内 都道府県内 都道府県外



V-RESAS <https://v-resas.go.jp>

出典：株式会社Agoop「流動人口データ」(GPSデータを元に換算処理を施した人口換算値)を元に集計

■もう1つ気になるデータもある。決済データによる消費動向の推移である。物価の高騰やクレジットカードに

よるものしか計上されていないということに留意が必要だが、交通に関する消費がコロナ前と比べて安定して10%程度減っている状態が続いている。交通機関はいまだに現金による決済も主流であることから、実態はもう少し回復しているかと予想されるが、人流の回復とリンクしていないところは気になるところである。仮説としてこの金額の減少分については、「交通に代わる手段≒EC、テレワークなど」に代替されてしまっているとも考えることもできる。(詳しくは <https://v-resas.go.jp/prefectures/33> を参照されたい)

■ここで昨年3月、ニッセイ基礎研究所が「データで見るコロナ禍の行動変容」というものをまとめている。これを見ると、コロナ禍を経て確実に人々の行動に変化が訪れているということだ。特に自家用車と電車やバスを比べてみるとその傾向は顕著に分かる。自家用車については全世代で「増えた」「やや増えた」という割合が25%前後あるのに対して、電車やバスはその割合は数%しかなく、その差は歴然としている。これは既に触れられているように混雑した場所が敬遠されたことから、公共交通機関の利用が離れたとされることが多い。



※ニッセイ基礎研究所「年代別に見たコロナ禍の行動・意識の特徴～移動手段編～」より抜粋

■ただし、1つ考える必要があるのは、その減った層が単に「密を避けた・感染リスクを恐れた」という理由のみで離れたかどうかだ。実際に高齢者になるほど、公共交通に対する敬遠は多くなっているのが理由の1つではあろう。その一方で、敬遠された公共交通は果たして「本当に便利だったかどうか？」という検証は必要であろう。整備が行き届いていない車両や遅れて当たり前のダイヤ、極端に少ない本数など、商品としての魅力があったかどうかを検証する必要はある。もし、必ずしもそうではないのだったとしたら、利用が減った層は単に感染症を恐れて避けたのではなく、単に「愛想をつかした」という見方をすることも出来る。こうなってしまうのは双方にとって不幸なことだ。

■ここからは、間違いなく傷ついた街や公共交通が元気を取り戻す大事な時期になってくる。ビジネスや観光客が本格的に戻ってきても、肝心の足がなくなっているのは元も子もない。事業者や自治体にも、街全体の再起動をする観点からの取り組みに期待したい。

NPO 法人公共の交通ラクダ(RACDA)
 事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内 1-1-15 禁酒会館 3F TEL&FAX 086-232-5502
 E-mail: info@racda-okayama.org
 URL: http://www.racda-okayama.org

RACDA 検索

